

幸福度から考える税金の在り方

白井市南山中学校 3年 高塚 蒔水葉

最近、「世界幸福度ランキング」というものがあることを知りました。これは、国際幸福デーの三月二十日に、国連が毎年発表している幸福度のランキングです。各国の国民の調査に加えて、様々な要素を元に幸福度を計るというもので、今年には百五十六ヶ国を対象に調査が行われました。調べてみると、日本は六十二位、一位は三年連続でフィンランドでした。フィンランドの消費税は二十四パーセント、その他の税金も日本と比べるととても高いにもかかわらず、一位を獲得し続けています。その理由や、日本との違いが気になったので、詳しく調べてみました。

先にも述べたように、フィンランドの税金はとても高く、一見すると「大変そう」、「住みたくない」と考えてしまいがちですが、フィンランド人のおよそ八割が、高い税金を払うことに納得しているというデータがあります。その理由として、学費や医療費の無償化、各種手当など、わかりやすい形でサービスに還元されており、国民がリターンを直接的に実感しやすくなっているということが挙げられます。フィンランドをはじめとした北欧では、社会保障がとても充実していて、生まれてから死ぬまで、国に保障されています。「高い負担」は同時に「多くの安心」をもたらしているのです。

私はこれらのことを知って、私の中の税金のイメージが大きく変わりました。今まで税金が高い国は嫌だなと思っていましたが、国民から集められた税金が正しく国民のために使われ、その結果、国民の生活が豊かで幸せなものになるというのはとても素敵なことだと思いました。みんなが困っている人を助け、支え合う、これが税金の目的なのだ実感しました。私は今、教育、公共交通、医療など、様々な公共サービスを受けていて、その源は税金です。私の生活は一生懸命働いて税金を納めてくれた「見えない誰か」に支えられていると思うと、普段の生活は決して当たり前のことではなく、たくさんの人の思いの上に成り立っている、とてもありがたいことなんだと感じました。あと数年後、自分が納税者になったら、今度は私が「見えない誰か」になって、未来の日本を支える子供達や、困っている人の力になりたいです。そして、なくてはならないものである税の制度を、次の世代へ伝えていきたいです。